

様式第3号（第11条関係）

会 議 録

会議の名称	令和2年度 第2回吉川市市民参画審議会
開催日時	令和3年3月12日(金) 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	市民交流センターおあしす ミーティングルーム4
出席者氏名	(敬称略) 峯健二会長、平修久副会長、高崎康男委員、高田明充委員、金澤美智子委員、伊藤映子委員、小野泰子委員、木原十三男委員、松村勘由委員、郭育子委員
欠席者氏名	
担当課職員職氏名	市民参加推進課 宗像浩課長、松井勉係長、近藤美樹主事、片桐駿介主任、子育て支援課 桜井健一課長、高橋亜矢子係長、長寿支援課 鈴木康雄課長、豊田敏昭課長補佐
会議次第 及び会議の 公開又は非公開の別	<p>【第2回 審議会次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>第1号 令和2年度第1回審議会にて選定した協働事業の第三者評価について</p> <p>第2号 令和2年度 市民参画手続の進捗状況について</p> <p>第3号 令和2年度 既に完了している協働事業の報告について</p> <p>第4号 協働事業評価シートの見直しについて</p> <p>4 閉会</p> <p>【会議の公開又は非公開の別】</p> <p>すべて公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	
傍聴者の数	1名
会議資料の名称	<p>資料1 令和2年度 市民参画手続進捗状況の一覧表</p> <p>資料1-1 令和2年度 進捗状況-1. 審議会</p> <p>資料1-2 令和2年度 進捗状況-2. パブリック・コメント</p> <p>資料1-3 令和2年度 進捗状況-3. 市民説明会</p> <p>資料1-4 令和2年度 進捗状況-4. 地域ヒアリング</p> <p>資料1-5 令和2年度 進捗状況-5. ワークショップ</p> <p>資料2-1～2 吉川市協働事業評価シート（令和2年度分）</p> <p>資料3-1～3 吉川市協働事業評価シート（第三者評価対象分）</p> <p>資料4 協働事業評価シートの見直しについて</p>
会議録の作成方針	<p><input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録</p> <p><input type="checkbox"/> 要点記録</p>
会議録確認指定者	松村委員、高崎委員
その他の必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）

司会

定刻（午後 1 時 3 0 分）により開会

○第 1 号 令和 2 年度第 1 回審議会にて選定した協働事業の第三者評価について

～青少年相談員活動推進事業～

峯会長

第 1 号について、事務局から説明願いたい。

事務局

1 つ目の事業は、資料 3 - 1 「青少年相談員活動推進事業」で、担当部署は子育て支援課である。

それでは、担当部署より改めて事業内容をご説明いただきたい。

子育て支援課

はじめに、青少年相談員について説明させていただく。昭和 4 0 年に埼玉県が青少年の健やかな成長を助けることを目的として、要綱に基づいて設置したものであり、県から委嘱を受けた 1 8 ～ 3 6 歳の方が、子どもたちの健全育成を担うボランティアとして相談員の活動をしている。当協議会は非常に歴史のある団体で、吉川市では昭和 4 2 年に吉川市青少年相談員協議会規約を施行し、事務局は子育て支援課が担っている。この青少年相談員の活動の 3 つの柱として、子どもたちの良き話し相手・遊び相手としてのお兄さん・お姉さんのような活動、健全育成や非行防止についての市町村等事業への協力、自己研鑽の活動として青少年相談員の集いや研修への参加がある。今年度については、コロナ禍の影響で事業が全くできず、ミーティングしか実施できていないと話を伺っている。本日は元年度の事業として説明させていただくが、メインは栃木県にて実施される「ひまわり王国サマーキャンプ」である。その他の事業としては、清水公園にてアスレチックを体験する「ワクワクトラベラー」というものを日帰りで実施したり、年末には「クリスマスパーティー」を中央公民館の調理室で実施している。また、市への協力として、児童館のわくドキワンダー祭りや教育部で主催している青少年健全育成大会にボランティアとして参加いただいている。事業概要は以上である。

ここで、事前にいただいた質問について回答させていただく。

- ・協働の形態（補助）について、行政側が提供しているものは何か。

⇒サマーキャンプの時になまりんバスの申請から予約まで行っている。また、市の子どもの貧困対策推進計画の中で、子ども未来応援集会というものを設置しており、そちらに会員の方が参加して市の子どもの貧困について考えていただ

	<p>く機会を提供している。その他に、青少年相談員の事業に職員が参加することもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者が少ないとあるが、広く周知するための方法としてチラシやポスター以外に何か具体案はあるか。 <p>⇒教育部へ依頼をかけ、イベントの参加募集チラシを各小中学校に配布させていただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者や会員の募集はどうか。どうしていくのか。 <p>⇒コロナ禍ということもあり、今現在、募集はできていない状況である。団体側から、次年度についてもイベントは実施が難しいのではと話はいただいているところであるが、実施できるのであれば同じように周知していきたいと考えている。また、会員の募集については、各事業に参加いただいた小中学生に声掛けをしており、実際そこから相談員になるパターンが多いことから、事業が実施できた際には、引き続き声掛けをしていきたいと話をいただいている。</p>
峯会長	今の説明について、何かご意見等はあるか。
峯会長	当事業は、小中学生のように年齢が比較的高い子どもを対象としているが、子育て支援課とはもう少し年齢の低い子どもを対象とする部署ではないのか。
子育て支援課	子育て支援課では、児童福祉法に基づいて18歳までの子どもを対象としている。
木原委員	サマーキャンプの募集に大変苦労されていると伺ったが、以前当審議会でも取り扱った「子どもの体験活動」やボーイスカウトなどと連携を取っていただくと良いのではと感じた。大変良い活動をされているので、頑張ってください。
子育て支援課	ご意見ありがとうございます。今後は、生涯学習課と連携しながら関連する団体へ声掛けしていきたいと思う。
松村委員	話を伺いながら素晴らしい活動だと感じた。感想のようなものになってしまうが、参加した子どもたちが、いずれは成長して企画側に回るという長いスパンで考えることが大事なのかなと思った。
金澤委員	事前質問も提出させていただいたが、どのように募集をしているかが気になっていて、大変申し訳ないと思うが、私も3人の子どもがいて、今回言われて始めてこのチラシを見た気がするなどと思った。この活動にはものすごく興味もあり、すごく良い

	<p>ことをされているとは思いますが、実際にはその程度の印象しか残っていない。チラシだと意外と流れてしまうので、何かと絡めるとというのが大事だと思う。また、キャンプに参加した子どもだけに声を掛けると、そういった活動に興味のある人だけが相談員になってしまうが、いろいろなタイプの大人と接することが大切なことだと思うので、何か別の方法があると良いなと思った。素晴らしい活動なので、もっと早く知ることができたら、ぜひ関わりたかったとも思う。今後も頑張っていたきたい。</p>
峯会長	<p>サマーキャンプではどのようなことを実施しているのか。</p>
子育て支援課	<p>キャンプファイヤーやバーベキューなど、キャンプをする上で基本的なことをしている。</p>
峯会長	<p>飯ごう炊さんなども実施しているのか。</p>
子育て支援課	<p>実施している。</p>
峯会長	<p>今の子どもたちは、自分たちで飯ごう炊さんをしたことは無いと思うので、他のイベントの時に飯ごう炊さんの実地体験を試してみるのはいかがか。</p>
子育て支援課	<p>良いことだとは思いますが、実施主体の団体にも伺ってみたいと思う。</p>
峯会長	<p>私の所属しているサークルでも、新しい会員を増やすことが大きな課題となっている。特に今のご時世では外に出る機会が減り、このままではどんどん先細りしてしまうことが目に見えているため、何か今までとは違う方法を考えても良いのかなと思っている。子どもが興味を持てば、親にも参加させることに賛成していただけると思うので、ぜひ検討いただければ違う展開が見えてくるのかなと思う。</p>
高崎委員	<p>今年で19回目ということであるが、毎年キャンプ地は同じなのか。</p>
子育て支援課	<p>ここ数年は栃木県の同じ場所である。</p>
高崎委員	<p>私も子どもたちを連れてキャンプへよく行ったが、確かに同じ場所であれば勝手もわかって実施しやすいとは思いますが、他の魅力あるところへ行くのも良いと思う。</p>
子育て支援課	<p>その旨代表へお伝えさせていただきたいと思う。</p>

高田委員	このような素晴らしい活動を今後も続けていただくために、コロナ禍における対応など、次年度の活動について何か考えはあるか。
子育て支援課	やはり先が見えない中ではあるが、この活動が忘れられないように情報発信は何らかの形で続けていきたいと代表と話をしている。
平副会長	「相談員」と言われると問題を抱えているお子さんに対して対応している方々のかなという印象を受けるが、そういうことではないという認識で良いか。
子育て支援課	そうである。
平副会長	様々な活動に参加していただくためには、日頃のお互いの信頼関係や顔見知りの関係ということが大事になる。ところで、吉川市にはプレイパークはあるか。
金澤委員	ある。
平副会長	当事業もプレイパークなどもそれぞれ素晴らしい活動をしていると思うが、互いに連携・協力し合うことでさらに参加者が増えることにつながると思う。
子育て支援課	代表へお伝えして連携できるように進めていきたいと思う。
峯会長	素人考えになってしまうが、遠くへ行くとなると人数が限られてしまうので、隣の調整池（運動公園）にテントを張って一晩キャンプをしてみると、地元の子どもたちに大勢参加していただけたらと思う。皆が参加しやすい形で実施するのも案として良いのでは。
	～老人福祉センター運営事業～
事務局	2つ目の事業は、資料3-2「老人福祉センター運営事業」で、担当部署は長寿支援課である。 それでは、担当部署より改めて事業内容をご説明いただきたい。
長寿支援課	老人福祉センターは、昭和54年度に開所し、平成11年度に増築を行い、現在の形となっている。建物は平屋建て、延床面積は697.5㎡、集会室など6部屋につ

いて利用が可能である。年末年始を除いて土日も開館しており、開館時間は午前9時から午後4時まで、市内在住の60歳以上については無料で利用いただける施設である。平成18年度より指定管理者制度を導入しており、令和元年度までは連合長寿会が指定管理者となっていたが、今年度よりNPO法人たすけあい・よしかわが新たな指定管理者となり、運営を行っている。

ここで、事前にいただいた質問について回答させていただく。

・個人利用者の年齢の内訳は。

⇒個人利用者の年齢の把握はしていないところではあるが、無料で利用されている方が多いことから、60歳未満の利用者は少ないと捉えている。

・団体利用ではどのような団体が利用しているのか。

⇒33団体に利用いただいております、老人クラブの寄り日や、将棋や社交ダンス、手芸などの趣味のサークルなどで利用されている。

・教養講座やレクリエーションの内容・カリキュラムはどのようなものがあるのか。

⇒スマートフォンの使い方教室やエクセルの使い方教室、英会話教室などの知識
・教養を深めていただく講座の他、ウォーキングの講習の後に市内のウォーキングを実施したり、体操などの健康づくりの講習会や笑いヨガという顔の表情に重きを置いた講座なども実施している。

・施設管理業務委託料の内訳は。

⇒人件費12,921,839円、管理費12,576,478円となっており、管理費の主な内容としては、送迎バスの運行料や施設内の電気設備の保守点検などの委託料として8,078,338円、事務用品の賃借料として1,565,907円、光熱水費1,407,985円である。また、施設管理業務委託費と実際の支出額の差額1,827,683円については、精算後、市に返還いただいている。

伊藤委員

老人福祉センターの建物はかなり年数が経っていると思うが、以前訪問した時に床が不安に思うことがあった。また、バリアフリーに対応しておらず、畳に直座りだったため、少し使い勝手が悪い気がした。利用者の皆さんも寄り日を楽しみに集まっていると思うので、ぜひ環境を整えていただけて楽しく利用していただけると良いのかなと思う。

長寿支援課

全体的な修繕については、伊藤委員のおっしゃる通り、だいぶ老朽化が進んでいる。これは、老人福祉センターに限らず、市内公共施設全体に言えることである。しかしながら、一つ一つ修繕していくとタイミングによって修繕費がかさばってしまう年が出てきてしまうため、長寿命化計画として市の公共施設を長期的に順番に良くしていこうという動きがある。中には緊急性の高いものもことから、順次予算化して修

繕をしていく流れとなっている。指摘のあった床については市でも把握しており、既に発注が済んでいることから、近々工事に入るところである。また、畳敷の部屋についてであるが、利用者には足腰に痛みを抱える方もいらっしゃることから座椅子を備え付けているので、必要に応じてご利用いただければと思う。

峯会長

吉川市では高齢化率が約22%ということで、10人に2人は65歳以上であり、住んでいる場所も様々と思う。遠方の方が老人福祉センターを利用するために、巡回バスなどの交通手段は行政で用意しているのか。

長寿支援課

寄り日などの際には、老人福祉センターでバスを用意してお越しいただいている。その他の個別の事業がある場合についても、お問合せいただければ随時対応させていただいている。

峯会長

老人福祉センターは、60歳以上のみを対象とした施設という認識で良いのか。

長寿支援課

市内在住の60歳以上であれば無料という料金設定をしており、料金の発生を伴うが、市外の方や60歳未満の方も利用は可能である。

今年度から指定管理者が選定し直されたことに伴い、世代間の交流を図っていくことも一つの事業として考えていることから、若い方にもお越しいただける事業展開をしていきたいと考えている。

峯会長

どうしても世代が偏ると先が狭まってきてしまうので、とても良いことだと思う。

長寿支援課

団体利用の方が多いことから、個人利用の方も来やすいような事業展開を進めていきたいと思っている。

高田委員

個人利用の方はどのような理由で来るのか。例えば、近所の方なのか、仲間たちと連れ立って個人レベルで利用するのか。また、老人福祉センターとして事業展開されている中で、現在不自由にされている部分で、今後取り組んでいきたいことなどがあれば教えていただきたい。

長寿支援課

昨年度を例にとると、2千名を超える方に利用いただいている中で、団体利用が約1,700名、個人利用が約400名と、圧倒的に個人利用が少ない状況である。団体利用については、先ほどご説明させていただいたとおり将棋サークルや社交ダンスサークルなどの利用があるが、個人利用では、卓球やバンパーというビリヤードのよ

うなものを利用されるために数人でいらっしゃることが多いようである。個人利用者に向けた事業については、市としても大きな課題と認識しているため、どのようにすれば来ていただけるかというところを今後十分に進めていきたいと考えている。例えば、目の前の沼辺公園では子どもを含む多くの方が利用されていることから、カフェのようなものを設置し、休憩がてら寄っていただき、その際に中を見学いただいて利用につなげていければと考えている。

松村委員

法令上「高齢者」というものは決まっているとは思いますが、政府が70歳定年を目指していることもあり、今後、高齢者に対してどのような見方で事業を進めて行こうと考えているのか。

長寿支援課

高齢者の定義については明確に定まっているものは無く、介護保険の中では65歳以上の方を高齢者と呼んでいる。近年では、65歳と言ってもみなさん元気でいらっしゃるので、楽しみ方一つを見ても以前は地域で寄り合ってお茶を飲んでいたところ、今では様々な趣味を持ち、活動の場も増えてきているため、高齢者の定義がとても難しくなっている。そういった部分も含めて、世代間の交流や元気で自立した生活ができるよう介護予防としての健康体操や介護に至る前に気づいて予防するフレイルと言われる運動にも力を入れているところである。

峯会長

老人福祉センターは、今後名称が変わると聞いている。

長寿支援課

皆さんも感じているように、どうしても「老人」や「高齢者」という言葉に抵抗がある方が多く、足を運びにくい原因になっているのではないかとということで、今年度、市の広報紙にて周知し、愛称を募集した。その結果、様々な色の展開ができるという意味で「シニア活動センター ぱれっと」という愛称をいただいた。今後もその名前のように様々な活動を進めていきたいと思う。

峯会長

「老人」という言葉には抵抗がある方もいらっしゃると思うので、「シニア」であれば少しは抵抗がなくなっていくと思う。

～日本語教室～

事務局

3つ目の事業は、資料3-3「日本語教室」で、担当部署は市民参加推進課である。それでは、担当部署より改めて事業内容をご説明いただきたい。

日本語教室は平成14年から開始され、吉川市国際友好協会が主催、市が共催という形で約20年間継続している事業である。事業内容としては、日本語を母語としない外国出身者にボランティアスタッフが生活に必要な日本語を日本語で教えるもので、スタッフの中には外国語を話すことが出来る方もいるが、基本的には日本語を使って日本での生活に悩みを抱える方に言葉の面で寄り添うといったものとなっている。場所は市民交流センターおあしす2階にある生活工房1・2で、毎週火曜日の10～12時と19～21時の2回開催している。今年度については、コロナの影響により9月までは休止となり、10月以降は第2・4火曜日のみ開催していたが、再度緊急事態宣言が発令されたことに伴い現在も休止となっている。参加費は無料で、事前予約も不要のため、その日に来た方にその場にいるスタッフをマッチングさせ、基本的には1対1で日本語を教えている。それぞれの役割については、団体側はスタッフの調整などの運営全般や開催・休止の判断、必要な教材の購入などを担っている。一方、行政側は会場の確保や資料印刷などの補助、団体への財政的支援、年に1回日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催などを担っている。団体・行政共通の課題としてスタッフの確保・定着を挙げていたが、令和元年度については学習者よりもスタッフの方が多い状況を概ね確保することができた。学習者の国籍の内訳は、ベトナムの方が多く、次いで中国、フィリピン、パキスタンとなっている。

ここで、事前にいただいた質問について回答させていただく。

- ・スタッフはボランティアとなっているが、行政側が資金援助等の考えはあるか。

⇒今回皆さんにお配りしている協働事業評価シートでは、決算総額のうち市負担分が0円となっているが、日本語教室の単体事業に対して市が補助しているものではなく、吉川市国際友好協会へ補助金を交付し、その中から当事業に費用が充てられている。

- ・今後も市内在住外国人が増加傾向にあるが、言葉だけでなく、日本の風習や規則等を教える専門の講師を雇う計画はあるのか。このままではスタッフの負担が増大するばかりになってしまう。行政側でできることはもっとある様に思う。

⇒日本語教室については、吉川市国際友好協会が熱い思いを持って立ち上げられた事業なので、市として今後も引き続き支えていきたいと考えている。共通課題として掲げているスタッフの確保・定着については、コロナ禍でスタッフとして従事したいけどできないという声が増えてきているので、団体側と話し合っってオンライン化の実現に向けて進めている。また、外国の方が一番困る原因の一つが「情報がわからない」と認識しているため、日本語教室では日本で生活する上での入口として支援しつつ、行政側では市役所のサービスにおける情報の多言語化を進めていきたいと考えている。

峯会長	今の説明について、何かご意見等はあるか。
小野委員	スタッフを沢山募りたいということであるが、例えば、私がスタッフになることもできるのか。
市民参加推進課	年に1回、専門の講師と連携してボランティアスタッフ養成講座を実施しているが、それ以外のタイミングでも随時募集しているので、日本語教室の開催日に来ていただき、その場でスタッフとして対応いただくことも可能である。日本語教室というと、外国語が話せなければスタッフになれないのではないかと思われる方も多くいるが、日本語で日本語を教えることになるので、ご興味のある方はどなたでも参加いただける。
小野委員	スタッフに対して謝礼などはあるのか。
市民参加推進課	あくまでボランティアなので謝礼は無い。
平副会長	吉川市の近隣の大学であればベトナム人の留学生の方も多と思うので、そういった方にお手伝いいただくと良いと思う。私の大学は上尾市にあるので、上尾市と協定を結んでおり、上尾市役所の資料のベトナム語翻訳を学生がボランティアで協力いただいている。日本人だけで担うというのも良いと思うが、そういった力を借りるのも一つの手だと思う。
市民参加推進課	隣の松伏町の日本語教室は、文教大学の学生が運営に携わっていると聞いているので、他市の事例も確認しながら検討していきたいと思う。
峯会長	留学生であれば言葉も話せるので良い案と思う。
平副会長	ベトナム人留学生が地域のイベントにベトナム料理のブースを出展し、売り上げた20万円を寄付したという事例もあるので、中には協力的な学生もいると思う。
金澤委員	昨日、私が所属している特定非営利活動法人よしかわ子育てネットワークの集まりがあり、その時に海外から日本に来られた方とお話する機会があったが、吉川市国際友好協会のボランティアスタッフに今年度から従事されている方が、自前の翻訳機をお持ちいただき対応いただいたので大変助かった。一方で、3～4万円する自前の機械を使って親身にサポートされている姿を見ていて、ボランティアの域を超えている

とも感じた。もちろん本人も勉強を兼ねて好きでやっているのだとは思いますが、ボランティアって何だろうと考えさせられた。

峯会長

市で何台か翻訳機を購入して、日本語教室の際に貸し出す等をする方がスタッフの手助けにつながると思うが。ボランティアと言っても結局はタダ働きであり、コロナの影響もあって社会環境も変わってきているので、いつまでも人助けという感覚だけでは成り立たなくなってきたと思う。行政の方でも、先ほどお話のあった留学生や翻訳機、少し気持ちの入った謝礼などを検討いただいても良いと思う。

松村委員

スタッフをされている方のニーズとして、課題や何か援助して欲しいなどの意見は出ているのか。

市民参加推進課

従事していただいているスタッフには、定年退職された後、困っている方を助けたいという思いを持って活動されている方が多いため、日本語教室以外の時間でも何かお手伝いが出来ないかと個人的に生活のサポートに入っていき方もいらっしゃる中で、そういった個人的な活動をどこまで行政が支援できるかについては難しい部分もある。課題としては、やはりスタッフにご高齢の方が多いため、やりたいという思いがあっても、コロナ禍に実施することに不安を感じて思うように活動ができないという声が多くなってきている。そのため、今年度については、団体側で当初予定していたイベントなどが中止となり、市からの補助金に余裕があるため、オンライン化に向けてタブレット端末を何台か購入したいと考えているようである。ちょうどおあしすにWi-Fiが導入されるということもあるので、スタッフを含め、今まで美南地区などおあしすから遠方にお住まいの方でも負担なくご利用いただけるようになるのではないと思う。

松村委員

事業として、日本語を教えることと外国人が日本で生活する上で不便な部分をサポートすることは切り分けているのか。それとも一体になってしまっているのか。例えば、生徒から「買物に行きたいのだけれど、日本語がわからないからついて来てほしい」と言われた場合にはどのようにしているのか。スタッフの判断に任せているのか。

郭委員

私も吉川市国際友好協会に所属しており、メインで日本語教室に関わっていた時には、できる限り切り分けて活動するようにしていた。生徒個人のことを考えるとサポートしたいとは思っている一方で、冷たいように感じてしまうかもしれないが、自分のできる範囲で一線を引くようにしていた。中には個人の電話番号をお伝えして対応されている方もいたようである。

現在、私は市からの委託事業である学校における日本語学習支援に携わっているが、子どもたちと接する中でも外国人の生活ニーズが出てきていると感じる。以前までは外国人と仲良くしましょうという時代であったが、現在は母国語も話せない日本生まれの外国由来の子どもたちが増えてきているので、例えば、吉川市国際友好協会と先ほどの老人福祉センターがコラボして、そういった母国にしか祖父母がいない子どもたちが世代交流だけでなく、多文化交流も一緒にできるようになれば良いなと思った。

話は戻るが、様々なニーズが出てきている中で、日本語教室の中で生活サポートも担うのではなく、生活サポートは生活サポート専門の組織が必要な時代になってきているのではないかと個人的には感じている。

峯会長

ボランティアに過度な期待をかけると本人もつぶれてしまう恐れがあると思う。

私からも一点お聞きしたいのだが、外国から転入してきた場合には市で住民登録を行うのか。

市民参加推進課

そうである。

峯会長

その際に、外国の方が転入してきたという情報は吉川市国際友好協会の方には入るのか。

市民参加推進課

そのような情報提供は行っていない。年に1回、市内に住む外国人の国籍や人数などの統計を取っているので、その情報については吉川市国際友好協会へ提供している。

峯会長

外国から転入された方は、日本語教室のように日本語を教えてくれるところがあるということはどこで知ることか。知人を通してか。

市民参加推進課

市では、転入してきた外国人向けに多言語に翻訳されたセットを市民課でお渡ししており、その中に日本語教室の案内も同封している。また、市のホームページでも案内している。吉川団地などでは集住の傾向があるので、知り合いを通してお越しいただける場合もある。しかしながら、現在、市内在住外国人が1,700人以上いる中で、コロナの影響を受ける前であっても毎回7～10人の参加ということで、市内に住んでいる外国人の中でも熱心に日本語を勉強したいと思っている方に来ていただいているのかなという印象を受けている。中には、仕事の都合により2～3年で帰国される方もいるので、外国人全てが日本での生活に悩みを抱えていて、その解決のために日本語教室を利用したいということではないのかなと思う。

高田委員	<p>先ほど翻訳機の貸出について話が挙がったが、災害時の避難の際にそういったものがあると良いのかなと思う。また、美南地区に外国人が多いと聞いているが、何か理由はあるのか。</p>
市民参加推進課	<p>市内で最も多いベトナム国籍の方は吉川団地に多く住んでいるが、美南地区には中国国籍の方が多く住んでいるようである。市内には中国国籍の方が約480人いらっしゃるが、その大多数の方が美南地区の育まち自治会の地域に住んでいる。中には日本で事業をされている方もいるようで、賃貸よりも持家にお住まいの方が多く印象を受ける。</p>
松村委員	<p>育まち自治会では、外国籍の方が多いので取組を検討しているところである。ベトナム・中国・韓国・フィリピンなどは人数が多いので、国籍ごとのコミュニティがそれぞれの地域にあるのか。</p>
市民参加推進課	<p>先ほど高田委員より災害時のお話をいただいたが、やはり外国の方は日本語で発信する情報が伝わりづらいということがある。また、日本は災害が多い国なので、母国があまり災害の無いような国だと感覚の違いが出てきてしまい、いざという時に避難ができなかったり、避難所に来ても情報が伝わらずに周りが解散していても最後まで残ってしまうといった事例もあるようである。そのため、市でもそういったコミュニティを把握して、リーダーになる方を発掘し、その方に情報を伝えれば周りにも伝わっていくようにしていきたいと考えている。併せて、多言語の対応についても引き続き検討していかなければいけないと思っている。</p>
高田委員	<p>現行のおあしす以外に美南地区などで日本語教室を展開する予定はあるのか。</p>
市民参加推進課	<p>現在の1か所を運営するだけでもスタッフの確保が大きな課題にもなっているので、まずはそういった部分を整えていきたいと考えている。今回皆さんにご覧いただいている協働事業評価シートの中では、コロナの影響が出る前に作成しているので美南地区の話も挙がっているが、現在はオンラインの流れもできていることから、どこに住んでいても繋がれるような仕組みを作っていくことが今できることなのかなと考えている。</p>
小野委員	<p>私の友達に中国人の方がいるが、会話の中で日本語を使っても意外と内容がわかっていないのかなと感じることがある。先日、その方に銀行で支払いをするにあたって心配だからついて来てほしいと言われた。私は予定が合わずについて行けなかつ</p>

	<p>たのだが、そういった外国人に関連するトラブルはあるのか。</p> <p>一番多いトラブルはゴミの問題である。日本ではゴミの分別が細かく指定されているため、なかなか理解ができずに、燃えるごみの日でないのに出してしまってトラブルになることがある。また、ベトナムの方はカラオケが好きなので、夜にカラオケで騒いでしまって周辺の住民に迷惑を掛けてしまうということも比較的によくあると聞いている。</p> <p>埼玉県では川口市や蕨市に外国人が多く住んでおり、特に川口市は日本で一番外国人が多い市町村と言われている。現在、市では自治会が主導となって勉強会を開催しており、その中で多文化共生をテーマに掲げ、川口市で活動されている方に協力いただきながら、地域で大きなトラブルが起きる前にみんなで住みよい街を作っていきたいと思いますと話し合いをしている。</p>
	<p>○第2号 令和2年度市民参画手続の進捗状況について</p>
<p>市民参加推進課</p>	<p>第2号について、事務局から説明願いたい。</p>
<p>市民参加推進課</p>	<p>(資料1及び資料1-1から資料1-6を用いて説明)</p>
<p>市民参加推進課</p>	<p>事務局の説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。</p>
<p>市民参加推進課</p>	<p>本日は、今年度の市民参画手続について、現在までの進捗状況を事務局より報告いただいたが、全ての結果報告については次回審議会にて取り扱う予定である。</p> <p>市民参画条例の中では、7つの市民参画手続のうち1つ以上を実施することで、市民と意見を交流できるように定められている。今年度においてはコロナの影響もあり、計画していたが実施できないということもあると思うが、全て出揃うとどのくらいの数になるのか。</p>
<p>市民参加推進課</p>	<p>本日の資料は2月に取りまとめたものなので概ね出揃ってきてはいるが、3月中に会議を予定している事業もあるため、多少増える部分もあると思う。</p>
<p>市民参加推進課</p>	<p>その他にご意見等が無いようなので、この件については次回審議会で検討していきたいと思う。</p>

○第3号 令和2年度既に完了している協働事業の報告について

峯会長

第3号について、事務局から説明願いたい。

事務局

(資料2-1及び資料2-2を用いて説明)

峯会長

事務局の説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。

峯会長

ご意見等も無いようなので、第3号議案についても第2号議案と同様に次回審議会で検討していきたいと思う。

○第4号 協働事業評価シートの見直しについて

峯会長

第4号について、事務局から説明願いたい。

事務局

(資料4を用いて説明)

峯会長

事務局の説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。

峯会長

事務局から説明のあったとおり、協働事業は行政側と団体側の双方が協力して取り組んでいかなければならないという中で、お互いの意見が相互通行しているのかを第三者が見てもわかるようなシートにしたいという思いで作成された。運用開始から回を重ねてきたが、裏面の振り返り項目で団体も行政も同じような言葉が記述されていたり、場合によっては「同上」となっている事業もある。その中で、前回審議会の事前質問の中で平副会長より見直しをしてはいかかかという提案をいただいたので、改めて評価シートの中身についてご意見をいただければと思う。

平副会長より補足の説明等はあるか。

平副会長

この評価シートは公にされるので変なことは書けないとは思っていると思うが、最初から全てが順調にお互いの意見が合って実施するということはまず無いと思う。市民と行政では考え方が違うため、そのすり合わせから始まっているはずなので、そういった苦勞したところも分かち合いたいという趣旨のものだと思う。それぞれが苦勞した点や相手がどう思っているのかが分かったという部分を書いていただくことで、

今後につながっていくのだと思う。

峯会長

本来、立場が異なれば考えも異なるのであって、時には正反対になることもあると思う。正反対の考えに対して、お互いがどのように歩み寄って事業を完了したのか、それとも歩み寄れなかった部分があったのか、次回は歩み寄れなかったところを重点的に取り組んでいこうなどのように、お互いが創意工夫していかなければ協働事業は単なる作業で終わってしまう。今回、そういった部分を引き出せる設問にするために資料4に事務局の方で設問例も記載いただいた。

事務局

設問例について簡単にご説明させていただく。

現行の設問では「～課題を話し合い、共有しましたか。」となっているが、このシートを作成する時には、既にお互いが話し合った後であることから、内容も同じようになってしまうのではと思った。そこで、設問5については、先ほど峯会長と平副会長からお話いただいたように、団体側と行政側のお互いの立場を意識して記入いただくことがポイントと思い、「それぞれの立場から～相手へ伝えましたか」という文言にして、現行と同様に行政・団体それぞれの記入枠を設ける形にしている。もちろん同じ課題を認識している場合もあると思うが、それぞれの立場を意識することで異なる課題を記載いただけるのではないかと考えた。設問6では改善策について記入いただく欄となっているが、設問5で出てきたそれぞれの課題を踏まえて、次回の協働事業をより良いものとするために一緒に話し合っ改善策を出すものと思うので、団体・行政それぞれの枠は設けずに1枠に記入いただく形にしている。

峯会長

現行のシートではなかなか相反する意見を記入しにくいということで、事務局から資料4のとおり提案いただいた。何かご意見等あればお願いしたい。

松村委員

非常に良い案だと思う。一つだけ確認させていただきたいのだが、このシートを書く主体によって設問の表現が変わってくると思うがその点はどのように考えているのか。例えば、設問5であれば、団体側については「～相手へ伝えたか」が良いと思うが、行政側の枠については「～行政から考えが出されたか」となるのかと思う。また、設問6についても、どちらが記入するかで変わってくると思うがいかがか。

事務局

この協働事業評価シートを作成した目的というのが、協働相手ときちんとコミュニケーションが取れて話し合いができたかということを見える化して記録として残すことである。記入については、団体欄には団体側が、行政欄には行政側が記入いただくものである。しかしながら、枠がそれぞれ分かれていない部分については便宜上、行

	<p>政が書く場合が多くなると思うが、もちろん団体側が話し合った内容をまとめて記入していただいても良い。</p>
松村委員	<p>文言一つ一つによっては、どちらが主体となっているかが見えにくくなってしまうことがあるのではと思った。</p>
峯会長	<p>松村委員の意見に対して、今回の設問6のように1枠しかない場合には、団体・行政のどちらが記入したのかわかるようにするということがかか。</p>
事務局	<p>記入者欄を設けて、団体・行政いずれかに○をつけていただくということか。</p>
峯会長	<p>記入していない方が「こんなこと言っていない」となる可能性も無いわけではないので、そこを明確にしておくこととすっきりするかもしれない。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
峯会長	<p>このシートについては、できる限りシンプルな作りにするということを出発しているのので、最後の自由記述欄でお互いの意見が分かるような形になれば良いと思う。</p> <p>本日冒頭に実施した第三者評価の中で担当課から話を聞かせていただいたが、日頃私たちが思っていることと行政が考えることの違いを知ることができるという意味でも良い取組だと思う。また、このシートが少しでもその手助けになれば良いと思う。</p>
松村委員	<p>繰り返しになってしまうが、文末の文言の違いで誰が主体になるのかが変わってきてしまうと思う。</p>
事務局	<p>記入者がどちらか一方なのか、双方で書くのかということか。</p>
松村委員	<p>そうである。例えば、文末を団体側は「～伝えましたか」、行政側からは「～伝えられましたか」とすれば、シートの行き来がなく記入できると思う。</p>
事務局	<p>例を挙げさせていただくと、当課で抱えている市民まつりの事業でシートを記載する場合には、我々が行政欄を埋めてからシートを団体へお渡しして団体欄を埋めていただくという形を取っていた。</p>
松村委員	<p>そのやり方は事業によって異なるのか。</p>

事務局

特に指定はしていないので、事業によって異なると思う。もちろん同じ場で記入できれば一番良いとは思いますが、このシートを作成するためだけに集まっていただいて記入するとなると負担も大きくなってしまうため、以前打合せした内容を行政側が記入して団体側に確認していただくという場合もあると思う。やり方については事業によって負担が少ない形で作成いただければよいと考えている。

松村委員

それであれば、どちらにも読み取れるような文言で記載いただくということで、この表現で良いと思う。

峯会長

協働事業評価シートに添付資料が付いているものもあるが、提出の際に担当課の方で付けていただいたものか。

事務局

今回、第三者評価を実施するにあたり委員のみなさんに事前に事業概要を把握していただいたり、当日の説明資料として添付させていただいているものである。資料2のように事業完了の際に提出いただく場合には資料の添付は求めている。

峯会長

次回審議会で資料として含まれるものには、添付資料は付いていないという認識でよいか。

事務局

その通りである。

峯会長

以前の審議会の中で、「シートの中に事業の目的だけでなく、目標値が記入されていると成果がわかりやすい」という意見が出たため、“事業の目的及び目標値”という表記に変更した経緯がある。少しずつ改善していけば、より使いやすいシートになっていくので、標記の修正も含めて何かご意見はあるか。

平副会長

目標値に関してはあった方が分かりやすい面もあるが、一方で、1年間で目標値を示すとなると参加者に対するものくらいになってしまうと思う。例えば、ボランティアスタッフ養成講座のように、講座に50人参加されたという「アウトプット」と、実際にボランティア活動に5人参加されたという「アウトカム」があり、この場合、後者の人数の方が重要となるが、なかなか単年度では結果が出にくいものである。そのため、このシートの目標値に記入するのは参加者止まりになってしまい、事業によっては経年の目標値があれば記入いただくという形が良いと思う。

また、老人福祉センターについては指定管理なので、委託契約の中で目標値を示さ

れると思うが、それ以外の事業についてはケースバイケースになってしまうのかなとも思う。団体側が目標を掲げて熱意を持って取り組んでいるのであれば目標値を示しても良いと思うが、必ず掲げなければいけないとなると厳しいものもあるのではないか。例えば、相談事業のように「困っている人への相談事業の目標は何人ですか？」と聞かれても、なかなか示し辛いと思う。

事務局

以前の第三者評価で取り扱った「緊急サポート事業」のようなものは、数が多ければ良いというものでは無く、逆に少ないと支援を受けられずに困っている人が多いのかもしれないという話になる。平副会長のおっしゃるとおり、事業によっては目標値を示しやすいものとそうでないものがあると思う。

峯会長

シートの中に「目標値が設定できるものは記入してください」といった但し書きを追加することはできるか。

事務局

市民参加推進課から全庁に照会をかける時に、シートと併せて記入例を示している中でその中に追加することは可能である。

峯会長

その形で照会していただきたい。

事務局から示されたシート案について、私は良いと思うが、いかがか。

平副会長

繰り返しになってしまうが、設問5で重要なのは「それぞれの立場から」という部分であり、お互いに事業をやって初めて分かることがあるので、その部分について双方がコミュニケーションを取って、何が良かったのか・良くなかったのかをキャッチボールしていただければと思う。

峯会長

設問を「～良かった点や悪かった点を～」とするか。

平副会長

悪かった点は「課題」に含まれているので案のとおりで良いと思う。しいて言えば、良かった点が前に来ている方が記入しやすいと思う。

事務局

「～良かった点や課題を」に修正する。

高崎委員

提出された評価を見ていると、うまくいかなかった部分をもう少し掘り下げて書いていただくと良いのかなと思った。今回の資料ではすべて○となっているので、どこかで△や×が付いても良いのかなと思う。私もこれまでに様々な企画をしてきたが、

参加者の多かった時でも「次回は行かない」と言われたり、逆に参加者が少ない時に「行ってよかった」「他の人にも声を掛ければ良かった」といった意見をいただいたこともあるので、実態に即した評価をしていただきたいと思う。単なる目標が達成できたか否かだけでなく、その過程で苦勞したことなどもわかるように記入いただくと第三者にもわかりやすくなるのではないかと思う。

峯会長

最初の方は△や×も見られたが、最近はほとんどが○になってきた。

高崎委員

○ばかりの評価だと反省点や改善点が無いのかなと思ってしまうので、△や×が出てくると事業としても良いのではないかと思う。

峯会長

シートによって○×式であったり、○×△式となっているものがあるが、現行はどちらを使用しているのか。

事務局

○×△式の方である。

このシートは、これまでも1～2年のペースで設問等を改善しているので、切り替えのタイミングによっては従前のシートを提出いただく場合がある。このシートを使い始めてからまだ5年ほどしか経っておらず、その間に何度か修正しているので新旧入り混じってしまっているが、今後、様式が固定されるようになった時には一律の様式で提出いただけるようになると思う。

峯会長

評価を付ける時に△があれば、比較的付けやすくなると思う。

今後、全庁に照会をかける時には、いつ変わった書式が最新版なのかを明確にしてくださいよう、事務局をお願いしたい。また、書式を修正した履歴が残るような形にしていただけると良いと思う。

事務局

承知した。

峯会長

他にご意見が無ければ、本日の意見を参考にして事務局で修正いただき、次回審議会の中でどのような書式になったのかを報告いただければと思う。

事務局

承知した。今年度の事業については、既に年度当初に現行の書式で作成するよう各課へ依頼を掛けてしまっているのですが、来年度事業分から変更後のシートで提出いただけるよう進めていきたいと思うがよろしいか。

峯会長	その流れで良いと思う。 以上で、本日の議題を終了する。 <p style="text-align: right;">(午後 3 時 3 0 分終了)</p>
以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和 3 年 3 月 3 0 日 署名委員 松村 勘由 (自署) 署名委員 高崎 康男 (自署)	